

第17回 FD フォーラム実施報告

10月28日（水）、天白キャンパス共通講義棟東3階 H304教室において、第17回 FD フォーラムを開催した。今回は、「教育の内部質保証～その基盤づくりと実際～」をテーマとし、教職員、他大学関係者等105名が参加して行った。

はじめに、吉久光一学長から開会の挨拶があり、続いて、FD 委員長でもある野口光宣副学長から、本フォーラムの趣旨説明に続いて、「本フォーラムにおける報告を、学修行動調査の導入を検討するうえでの一助としていきたい」と提言された。

基調講演では、「双軸の教学 IR 調査がひらく教育の内部質保証」をテーマに、お茶の水女子大学 教育開発センター 半田智久教授を迎え、内部質保証システムの構築についての基調講演が行われた。調査を通じた学生の学修動機づけの発揚や教学の実態把握など、その実施意義の高さについて述べられるとともに、GPA の特性の周知による単位制度の実質化の方策についても報告があった。

「名城大学の教育改善の取組」として、理工学部 社会基盤デザイン工学科 新井宗之准教授と、薬学部 薬学科 大津史子教授から、本学の学内 GP である「教育の質保証プロジェクト」で採択された、教育の内部質保証に関わる取組の事例報告があった。

全体の質疑応答では、本発表に関する多くの質問・意見が寄せられ、活発な議論が行われた。最後に、安藤大学教育開発センター長から、本フォーラムでの報告をきっかけとして、教育の内部質保証について見つめ直すことで、今後の本学の教育の質保証に繋げてほしいとの纏めをもって、第17回 FD フォーラムを閉会した。



内部質保証システムについての基調講演をされる半田教授